

千年代最後の冬合宿報告書



SAC
信州大学山岳会

BIVA!!
2000



目次

- 表紙
- 目次
- 冬合宿山行記録… P3～P11(中川)
- 係かろの反省… P12～P15
(横山(ノ), 梶原, 横山(浴), 松崎)
- 個人の反省・感想… P16～



クッキー **ハグ患魔 vs ギカ天使** 2014

文学マニアの聖守！作品について熱く語り始めると高揚し拳を振り回す！戦いを好まないというが潜在能力は高そう？！

クッキー/ピックリマンプロジェクト

1999年、クッキーマンチョコ復活!!
キミは何枚集めたかな？

1999年度冬嶺山行記録

- 12/23 (木) 笠谷出合国道 ~ 笠谷T.S. (7:05)
- 24 (金) 笠谷T.S. ~ 大木端の辻 北面尾根
1595m 手前 ~ 笠谷T.S. ~ ヒアケ谷T.S. (6:40)
- 25 (土) ヒアケ谷T.S. ~ ヒ1干尾根 1621m 314 T.S. (6:35)
- 26 (日) 1621 T.S. ~ ヒ1干尾根 1982m T.S. (5:05)
- 27 (月) 1982 T.S. ~ ヒ1干尾根・南西尾根工区 ~ 竹造 T.S. (8:25)
- 28 (火) 竹造 T.S. ~ 笠ヶ岳 ~ 秩父岩T.S. (8:25)
- 29 (水) 沈殿 (0:00)

- 12/30 (木) 秩父岩T.S. ~ 秩父平 ~ 大12岳
~ 弓折岳 ~ 双六冬季小屋 (7:20)
- 31 (金) 双六冬季小屋 ~ 横沢岳 ~ 西鎌
~ 穂の肩冬季小屋 ~ 穂ヶ岳 (8:20)
- 1/1 (土) 穂の肩冬季小屋 ~ 東鎌 ~ 西岳T.S. (6:00)
- 2 (日) 西岳T.S. ~ 志岩岳 ~ 東鎌
~ 大天井岳 ~ 常念冬季小屋 (7:20)
- 3 (月) 沈殿 (0:15)
- 4 (火) 常念冬季小屋 ~ 常念岳
~ 常念東尾根 ~ 常念(11:11)広場 (8:10)

'99 ミレニアム冬合宿

12/23 (木)	10:20	1016m
3:50	11:20	1180m (ヒアケT.S.)
4:00	12:30	1200m
6:30	13:25	1220m
7:00	14:05	笠谷T.S. 1230m
7:35		笠谷出合水直管上 甲エスパス線(野・包・橋)
8:30	8:45	林道入り
9:20	12:05	岡本エスパス
	12:40	ザックリポイント
	16:20	笠谷T.S.

Hey!! Come on. Fuck!!

今日はとんでもない一日だ。ルートは全々
ちがうわ。川には、落53わ、尾はくといわ。
とーんえん。すこぶろ クリスマスプレゼント
もありがとうサンタさん。

P.S. 差し入りのケーキとスパークリングワインは
うまかった。幸せな夜。BOND

12/24 (金)

5:30	起床	11:10	1320m 発
7:20	笠谷T.S. 発	11:55	笠谷T.S.
8:25	1270m	13:00	1210m
9:35	1320m 1個隊	14:00	ヒアケ谷T.S. (1180m)
10:45	1695m 中間		

笠谷エスパス利用 → (野・岸・B・ジ)

二日連続の「そそう」です。
このままでは お話になりません。
みなさん引いて締めたいましよう。
明日も lovely♡ ウフッ (おじ)

サンタさんね
ヒアケ谷の女の子の人
をくっさい。

川岸

12/25 (土)

5:00	起床	13:10	1621 m 山 T.S.
6:35	ヒヤッ谷 T.S. 登		
7:35	1300 m		アソビ (野・丸・杯・瓶 1)
8:35	1370 m	Fix 21	13:40 1621 T.S. 登
10:40	1460 m		14:55 1700 m
11:50	1570 m		15:20 1621 T.S. 登

クリスマス。ねえねえ！ 松本はホワイトクリスマス？ 性なる夜はどうだ、たんぽぽの夜に F だよ。

やと冬合宿はくた。アソビマシンの今日 "おめ" を拾った。冬眠のたじみみたんになつた。すくかわかかった。おめ夕飯を食ふよいか言つた。確かか 食ふた。なるほど 物ほ 小こて かわかいのだ。すてきなクリスマスプレゼント。 Bond

冬合宿 1B。
体調悪くはなしては良い休息となる
日誌 たとて思ふが。これから冬合宿
を本格的に始める。そんな感覚
林道は知ってるから
知らないうちに
のびている

あと、今日はクリスマスイブの429km
(黒く) -
ふてくて
なかーく
してくーたさいい (赤)

12/26 (日)

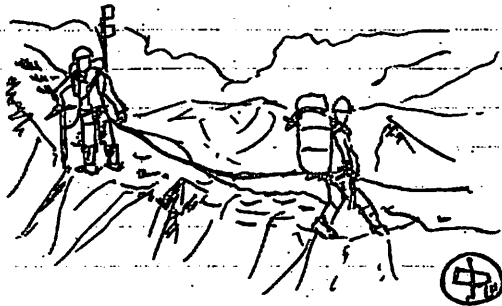
5:00	起床	11:05	1930 m
7:00	1621 m T.S. 登	12:05	1982 m T.S.
7:50	1750 m		
8:50	1845 m	下界 アソビ (9.1 表・背・B)	
10:10	1900 m	12:50	1982 m T.S. 登
		15:30	" "

今日は26日 明日は27日 下界はさ"廻り"を
いかにしよう。でも僕達は明日もアソビの
アソビ。一休アソビを繰り返して
今年最後の後5日。かかて明日もアソビ
12/27

冬合宿で気温が昨日とはう、7かた、7
寒かった。アソビは雪が深くはなかな
道まわ 列ぼること時々
冬合宿 アソビと片道の一日
たった。1982のテン場にアソビ
アソビは、うんかった。か"てアソビ"
雪の中、泳いだ。"ら 体中冷
えんた。
今日のあかつのビリー-1アソビが
アソビもかほりける。
明日もアソビ、か"んぼ"ア
アソビ、アソビ (アソビ)
アソビ

九州人に比べて雪の量はひく。
アソビで始まる本格的に降る雪をアソビ
アソビ。今日か、降るアソビアソビの
アソビに見る。雪。降るアソビ、
アソビ。アソビアソビ。山合宿
クリスマスアソビ、アソビ。
クリスマスアソビ。次はアソビ。
山のアソビアソビ。クリスマス
アソビ。正月もアソビ
アソビ

これを書いているのは、1/1の西岳ヒュッテにてである。
 昨日は、西嶽の登りだったが、本隊は、
 山の頂から、ケーブルで歩を歩いた。
 2000年の年越しヒュッテで、槍岳山荘の営業
 レンズには驚いた。草天狗もいっしょ、時雨もあり
 槍ヒュッテ。時間が早かったのが人はそれ程
 でもなかった。冬期小屋での年越しは、20日。
 今日は何故か年越しの実感がなかった。
 それにしてもこの合宿の長さであらうか？
 おやつおそばを始め、実働9の食料は、
 重いだけあってうまい。
 もうすぐ合宿が終わる。長いので
 やはり短いヒュッテの正しい所だ。



2000年 1/1 (土)

5:30 起床	12:20 水俣乗組
7:40 槍1層 西岳山頂	14:20 西岳山頂
10:05 大槍ヒュッテ	14:30 西岳山荘
11:35 2645m	Fix 隊 (野・甲・日 死)
12:00	7:20 槍1層 麓
	13:00 西岳山荘

東嶽のfix隊と11号車に緊張して出て行った。
 けれど、fixは難い。張り場所の判断、SPEED
 など、経験がものを言う。個人的には反省
 ばかりだ。今日は天気に助けられて、7時
 疲れた。

- 初葉 1. ぬきまわりの沢で、湯けりになる。
 2. 100g 69円 の牛肉(2)を100g買う。

西方とも叶わなくていい鬱だった。
 明日、あつてもがんばっていきましょう。
 新年あけましておめでとうございませう。
 ひだか

1/2 (日)

5:00 起床	10:55 牛首展望台 2966m
7:00 西岳山荘 T.S. 死	11:30 大下井ヒュッテ
8:10 赤岩岳	12:20 大下井山頂
9:55 2648m	12:25 大天荘
10:15 喜作新道分岐	14:20 常夜小屋

先給蔵(岸B. 林)

6:25 西岳山荘 T.S. 死
 10:40 大天荘

いかに凍水きた。喜作新道に大天荘の早川。
 加えて速舞二のfix。
 ついに見えた。松本の風景が、
 今年初の道りせ思ひ出し。感動の目した。
 早川山にうたいもん 食いにいっしょ。(149)

今日もfix隊。文字どおり「瞬報」にやたら
 松本を近づく、何をやるのか、何をやるの
 か、頭が回転数はレドマンへ突入。
 反面、肉体の疲弊もピークへ。体の
 におもピークだわ。 BOND

新年早々... マンゴー

明けましておめでとうで玉金!!
 今年もヒュッテと飛ばせて
 もらいます。
 常念の間近に、そして松本の街が
 近づいてきた。最後まで息を抜かす
 にいきたい。太陽に感謝!! 感激
 雨、アヲレ 松野

あけましておめでとう。2000年代最後の登りは
 加藤山(新山)に、かぼちの麓のついで
 ほらねとキスする。おのつた。おそく
 やみそろしや... 合宿はいいなあ。
 今年もがんばらしていきましょ。

マンゴー

2000年代暮開。今日からもういいかい
 圧縮もしていいかい!

1/2

- 7 -

1/4 (火)

5:00 起床	12:25 12:25	1955m
6:50 常念峯尾根	14:00	林道
8:00 常念岳山頂	15:30	常念に119尾根
8:40 前常念	16:00	BOX
12:00 2175m		

今回の合宿は、今までの山人生の中で最高の山だった。

これはじつと、まだ純粋に山がいいと思えたのは初めて。

今はただこの達成感に酔っ払っていたい。

そして、すばらしい仲間たち、ありがとう!!

さあ、た〜くさんくうごーか〜

たつ今ステーキ宮にて恒例の食いバトル中!!

食うことの集中は何も書かん! (B)

- ハンバーグトリア 680
- チーズサラダ 480
- ピザ 680
- ハンバーグ & サイコロステーキ 1180
- チーズトースト 1072 480
- 計約 3600円 一人2000円

表分

- 300g スターキセット (米2皿, サラダ, スoup, ドリッパー)
- 海苔ピザ
- ミニパフェ

これ約2500円也 BOND

合宿した。自分にとっては、みんなにとって過去最大の山行No.1 なのではないだろうか? これだけの山行を会という組織で達成できたのはすごいことだと思う。4年生に感謝。

1/4 BOND

今日の常念東尾根の強固には閉口した。シビアだった。

今日の宮のメニューには閉口ならぬ内腹... はしなかつた。一瞬満腹かに思えたが。

食い終わった後 数分後、ホ2マシト? という感じである。

4日目の冬合宿が終わり。

何れもいえない身命だ。

1/4 DM1003 (中島)

冬合宿完了。たつは2宮で暴飲暴食の最中。うん。山屋にこれ。個々それぞれ山行にこれ実11月合宿でした。親。と親。この合宿をこのものを目標にした。これ。思いついた。感謝満足で。 (1/4)

宮の次は、ほす向いのモスビーがーた!! いくぜおう!! (B)

お世話になった皆さん、スキー山、匠山、OBの方、国本、若尾、亮介さん、深沢、みな、みな、ありがとう! 自分達の力だけで登る、というように、笑は、ほんまにが友人、先輩の助けで、最後は、ICJの博多さん、ありがとう!

BOND

最後の合宿が終わった。4年間の中で一番見出しに残る合宿。山行だったと思う。たいてい合宿とは(自分かポイント)でたいていかけた水も。

これから先、ニリ信大山岳会で経験した合宿の53回山行を二度と味わうことがないだろうと思うと、かなりさびしい。やっぱり、山岳会の仲間にはかけがえのない仲間だと実感した。みんなありかたう。山岳会バンザイ。

妻谷

冬山は下る(滑る)事は今まで自分の人生に数多くあったけれど自分の足でこんなまでに長い距離を歩くのは初めて。"得る物は多い"と言われ、たまたまなくついでに今回の合宿であつたけれど、本当に実の多い山行だったと思う。最後に、父、母、父。僕の今夜の食費 2,500円 at ステーキ屋 + some extra at モスバーガー。明日からは節約します。ゴメンナサイ。

(音)

腹1/3目にしておけばよかった。石岡

冬合宿後の雪。しあわせでした。

四

13日間という合宿の中で、最終日の常念、東根が精神的に一番辛いところかたがためがたが二重で"見えな"というのが二重の恐怖であつたのは初めてだった。それにして、おぼろげに考えた。雪のいしきは予想以上に苦しかった。もっとうまく

食べるべきだった。合宿のときも。最後に個人的に一言でいうと、みんなが11である。むだか

1000年代最後の日と2000年代最初の日。山岳会の仲間と共に冬山で過ごせばいい。来年は20世紀最後の日と21世紀最初の日。冬山で迎えることにする。その日を楽しく！

最後に、27日、来年こそは共に同じ時を過ごそう！

以上をもち、1999年度シラカ合宿の記録を閉じる。

2000.1.7. 17-45

(P4)

体型モード	成人
性別	男性
身長	173.6cm
体重	69.6kg
イピーダンス	376Ω
脂肪率	15.2%
脂肪量	10.6kg
除脂肪量	59.0kg
体水分量	43.2kg
BMI	23.1
標準体重	66.3kg
肥満度	5.0%

各係りの 反省



医療・気象の反省

横山 輝生

(医療)

冬山では、風せ、凍傷、外傷、筋肉・関節の痛み。
栄養不足の保吸等のポイントに分けて薬を運んで
持っていくことも。

冬山には、コンタクトのFライオンCOOL制F4、HEAT制の
方が腰にも、いせにもやさしい。使える。

(気象)

高層天気図の時間帯、いつ始まるか、仕事前 = checkしておく。
年によらずおきかたの違う。

今年も12/25、5:20～ だった。

会計・渉外からの反省・感想

- ・ 帰りのドライバーの方への連絡が準備の日になってしまった。現役といえども親しみ仲にも礼儀あり。

「早め早めの会計・渉外」

- ・ 長い山行は、ケイタイも持っていくと、何かと便利。有事の際にも綾線なら、サーバーより使える。

梶原 恵

会計報告

収入	58613	円	(フリ冬から)
	255000	円	(合宿費) + 110円(?)
支出	247024	円	(エッセン、装備)
	28000	円	(小屋使用代)
	22250	円	(ガス代、車代)
	5000	円	(Mr.岡本へのアリガトウ代)
	7000	円	(エグのキャッシュバック)
<hr/>			
残金	4449	円	



今回のエッセンの目標はズバリ、"やすい、かゝい、はやい、うまい"の全てを満たすというものであった。これに関しては言うまでもあるまい。自画自賛である。だがどうだろう！合宿中の皆を見てみると、飢えを訴える人の多いこと。更には、油分、たんぱく質等の栄養素不足。後半、スペシャルメニュー等でそれを挽回して自分自身の中では良かったと思うが、不満に思っている人もいるに違いない。それを踏まえて考えてみると、今回の反省は、自分の方針に間違いはなかったと思っているし、これに関しては成功していると思うが、それはばかりにしろわめて今まで多くの人がエッセンで得た多くの参考になるべきものを見捨ててしまったことであらう。これからエッセン係になる者は、自分自身で新しい良いアイデアを練り、それを今までの反省や教訓とうまく融合させて、素晴らしいエッセンを実践して貰いたい。ズバリ目標は"やすい、かゝい、はやい、うまい"に加え"ボリュームたっぷり、あまさない"というものにして貰いたい。目覚まし活躍はエッセンから。

+炭水化物多い。

・今回感じたこと等

- ・レーション小さすぎ(という声が多数 → 個人的にはあまり良い)
- ・レーション内容が良い(チョコ等多く、人気がないが、ビスクト等、(か)有つは要にはらす)
- ・沈んで日は予備のレーションを食い、前日に酒を飲んだものは翌日にまわす
- ・ポトフは軽く、味も良いので非常に使える(予備日も乾物のみのポトフが良い)
- ・普通のコンソメの他にチキンコンソメ、ヒレコンソメ、中華だしなどバリエーションがあると良い
- ・年越しそば大成功
- ・昼めしは100円SHOP(特にドリンク)を使わずとも、下の階でおいしいセレクト等がえり。
今回昼めし、セレクトは990real、2ndは各カリー、カレー、チキンカレー、100円real、3rdは高級600円は1700
- ・さらには、バリエーションを増やそう(かりんとう、オレオ、かきゼー等100円以内で充分がえり)
- ・ペミカンが少し小さめだった(これは特に良いが、油分、たんぱく質不足を補うに役立つ)
- ・油分に關してはゼリ袋に入ると、中バターやラードを注入しておくが良い
- ・また、1日にたんぱく質は100g必要(運動しているとき)しかし、肉には20%の含有率ではない
- たんぱく質は永遠のテーマ → がんばって解決しよう

最後に、西源は使える。レーション、魚、ラーメン等、準備の前日、前日等を使って前もってかゝい、ゆくと良い。非常にやよい、ではGood luck.

装備系の反省・感想

松岡 林太郎

・反省

- ・竹ポールは、前もてどこかの私有林の所有者に頼むべきだ、決して盗むということはいけないと思う。
- ・テントのポールを忘れるという大きなミスをした。団装分けは事前にする。
- ・ダンロップのポールのゴムは、エスペースのゴムに変えるべきだ。これ絶対!!
- ・腰ひもの数が違う。ローソク一本ごとに針金がついていた。最終的に入山前に全ての装備について細かく点検が必要。
- ・テントをまとめるひもは、“色つき”。白では無くしやすい。
- ・MSR修理用にリップクリームを団装として加える。
- ・ハーケンの量が少なかった。あまりにも軽量化を意識しすぎた。腰ひもの方がシュリンゲにくらべ利用度が高い。シュリンゲ:腰ひも=3:2の割合にしてよいのでは。
- ・トハン具は、Fix隊が出た日ごとに整理する。
- ・Fixロープ30m以下のものがもと必要。
- ・ローソクは、どうせ折れるのだから、最初から半分にして持っていく。
- ・シーバーの予備電池が少なかった。10日以上入山し、分隊する場合、3~4回分必要である。参考:電池6本使用のシーバーローパー・フル使用で1~2時間。

・ガス使用量

12月23日	700ml	12月24日	600ml	・合宿の場合
12月25日	800ml	12月26日	1400ml	ガスはケチらない
12月27日	1000ml	12月28日	1300ml	90ml以上は
12月29日	1000ml	12月30日	1000ml	必要だと思う。
12月31日	1300ml	1月1日	1300ml	
1月2日	1500ml	1月3日	1400ml	

1月4日分も含めた総使用量 14.8L

・メタの使用量

・37本

・ローソク使用量

6本 + $\frac{1}{2}$ 本

・粉失

・シュリンゲ 7本 ・アンテナ 1本 ・ゼナ 6枚


・増加

・腰ひも 2本 ・スノーバー 2本 ・ハイハーケン 1本

・感想

・装備系は、全ての装備に関することについて責任を持つくらいの自覚が必要だと思った。シーバーの使い方や、装備の修理なども勉強するべきだ。

個人の反省感想



冬合宿の反省と感想

1年 石岡春彦

[感想]

今までにない充実した山行で、最高の達成感が得られたが、同時にあまり思い出したくないほど厳しくもあつた。寒さや風の強さが激しいほど空の青さが美しく、雪の白さが目にしみた。

[反省]

- ・今日は体力だけではなく総合的な生存能力が問われた気がする。非常に大切なのは体調管理ではないかと思った。風邪、空腹・脱水・寝不足・高度などがその日の動きに大きく作用し、疲労の度合を決める。常にベストの体調を維持できるように注意を払うべきだ。例えば、多少ゴリ押ししてでも大量のお茶を作って飲んだりである。
- ・僕は比較的、高い所をやけに恐いと感じる特性を持っているようだ。そのような時に心の平静をいかにして保つかということが重要な課題だ。

冬合宿報告書 会1 中川隆志

感想

2週間に渡り冬山に入山して、自ら得たものは中味の充実した、
実り多きものであった。生活面(食事・睡眠・排泄・生活装備)、行動面
(ラッセル・雪稜歩行、クラスト斜面・強風下・低温下) いずれも初めて体験
することばかりで、興味も魅かれると共にその厳しさを痛感した。

自分にとって冬合宿 そのものが初めてであり、今合宿について
過去 No.1 と上級生が感じていることについてはアゴピーンとくるものが
多い。おそらく、数年後振り返り、1回生の時の冬合宿ということもあり
やはり今合宿は最高だったと思えるのであろう、しかし、さらにその
レベルをあげたい素晴らしい。今合宿以上の冬合宿を成就させる能力を
身につけてほしい。そのためには何か必要なのかを感じることもできた。

反省

致命的ミスをしてしまった。槍ピストンの途中、自分の不注意で
ヘルメットを落としてしまった。今合宿で自ら得たプラス面を同等の
マイナス面である。それくらい大きなことだった。今後一斉このように
ことのないようにあることを誓い、自ら律していきたい。ヘルメットを
借りた 菱谷 2人 川井 2人 には本当に感謝したいと思う。

冬合宿 反省と感想

反省 - 初めての冬合宿ということもあり、見る物全てを新鮮かつ感動的であった反面、来年につなげるべき反省点も数多くあった。合宿初めの数日間(は冬山での生活リズムに不慣れで夕方のエッセンや朝の出発の準備に手間とってしまった。行動中の反省としてはやはり体力不足であろう。1年生としての体力は備わっているかもしれないが2年生としてはまだまだ力不足。自分に加え他人にも目を向けなければならぬ上級生になることをめざしてより体力を鍛えたい。感想も同様。前々から受付き始めていたが、今回痛感したのが自分のボランティア精神の欠落である。1日の行動終了後には疲れもあり自分の事しか考えずまわりを見る目が欠けていたと思う。もっともっと人のために働かせる人間になりたいと思う。

結果としていえるのが体力不足及び経験不足から来る精神的余裕の無さであったであろう。やがて来るべき次の冬合宿に向けこれらの問題点をクリアして次につなげていきたい。

感想 - 上級生の各々、お疲れさまでした。無事全員下山できたのもリーダー部員の頑張りがあったからだと思います。1新入生として感謝申し上げます。

冬合宿、とても楽しかったです。冬の日本アルプス、想像以上にすばらしかったです。ただし不満足だったのが寒さ。予想していた以上に温かく、ちょっと残念。これはもう冬の北海道へ行くしかない！ にははともあれ一年間ありがとうございました。来年もがんばっていきましょう。

1999年1月5日

野川“吾郎”謙介

P.S 歯ぎしりオーケストラ、やはりストレスがらでした。部屋の相方は聞いた事は無いとのことでした。

冬合宿の反省と感想

～反省～

- ・13日間という長い山だったが、毎日モチベーションが高いわけではなく、疲れて休みたいなーという日もあった。モチベーションの調整は難しい。
- ・Fix隊には、何度か出たが、まだまだ力が足りない。判断力やスピードを養うためにも、バシバシ山に行く。
- ・ジャ林に比べて、ルート取りや判断など、いろいろな面において不足している。これは、山に行くしかない!! いっまでも負けてはおれんぞ!!

～感想～

こんなにも長いこと冬山に入ったのは初めて。入山前は、昨年のももあり、いろいろと不安だったが、山に入ると、一日、一日がアッという間だった。

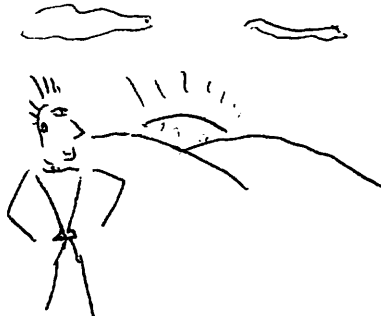
一日、一日が勉強でした。

少しではあるが、自信も持てるようになったけど、まだまだ足りないから、これからバシバシ山に行く。

今までの山人生で最高の山だった。

山岳会だからこそできることだろう。

みんな、どうもありがとう!!



2年 梶原 恵

おー人は何故
太陽に魅おれるのか

冬合宿の反省感想

松野 林太郎

中回た最た反れた術図内的たいたと基反まな。の軽とたか
 途今、か、のこた、技地ト合、てこは、大たい、ある感、浮
 一人、か、か、くも、行、る、い、ン、総、い、し、う、の、し、が、な、い、な、実、あ、に
 一、で、よ、思、な、多、て、山、登、用、テ、う、強、言、う、の、対、入、れ、け、反、ろ、単、充、が、頭、に
 誰、点、が、と、は、は、し、た、を、ま、た、ど、こ、勉、言、う、の、対、入、れ、け、反、ろ、単、充、が、頭、に
 て、う、使、だ、に、は、は、し、た、を、ま、た、ど、こ、勉、言、う、の、対、入、れ、け、反、ろ、単、充、が、頭、に
 し、と、天、の、宿、的、体、残、で、ハ、と、ま、な、に、り、き、う、そ、判、に、た、係、い、か、は、意、味、宿
 そ、た、う、の、個、会、全、く、行、ン、と、こ、に、存、分、分、は、従、う、の、半、た、い、ろ、宿、き、の、い、
 。キ、思、あ、で、面、の、が、の、る、い、自、自、を、に、た、少、の、が、が、続、た、合、大、こ、た、
 行、で、と、は、ま、反、て、と、形、に、す、ど、の、え、示、宿、面、た、日、き、回、点、く、い、
 山、ス、た、に、今、の、し、こ、存、外、想、る、今、ら、考、指、思、は、合、場、面、た、日、き、回、点、く、い、
 い、一、達、は、そ、い、う、以、予、き、か、の、の、と、で、い、は、悪、が、い、だ、だ、し、
 長、レ、だ、分、感、な、存、よ、れ、を、で、た、れ、分、い、山、ら、な、く、と、と、う、い、だ、だ、し、
 は、ト、の、自、成、し、た、ら、の、そ、候、が、こ、自、グ、し、冬、か、え、付、こ、思、た、だ、ま、か、
 て、で、も、か、違、が、な、こ、天、理、思、こ、自、グ、し、冬、か、え、付、こ、思、た、だ、ま、か、
 し、ま、た、力、の、し、あ、は、と、に、修、と、う、つ、り、お、い、か、考、は、も、む、と、れ、ま、く、
 に、後、し、す、時、も、て、か、こ、確、の、思、一、が、た、思、し、体、気、に、な、得、は、う、ま、
 宿、最、更、か、た、る、で、く、う、の、的、備、く、と、う、た、示、り、と、ば、天、先、く、を、節、ハ、
 合、く、充、生、し、え、行、な、よ、れ、ら、装、て、る、も、指、存、る、こ、れ、し、で、良、点、季、山、
 う、な、に、を、着、思、山、か、し、ろ、か、や、れ、い、て、か、の、に、が、の、え、も、ン、は、省、の、の、
 い、と、常、れ、到、に、た、い、で、ち、図、術、さ、て、し、な、そ、う、な、分、鍛、セ、の、反、山、次、
 と、こ、非、そ、に、う、て、い、も、負、技、求、し、そ、い、よ、つ、自、鍛、ガ、ッ、の、冬、を、
 間、る、は、道、よ、残、え、な、は、天、活、要、足、て、い、ど、る、に、タ、だ、う、エ、い、く、と、
 日、す、宿、よ、林、の、が、考、は、力、升、生、か、不、い、キ、け、き、故、時、ま、ま、と、と、多、う、こ、
 下、の、に、後、も、省、か、の、や、を、で、な、力、き、が、本、対、な、り、ま、て、装、備、化、に、思、だ、



非常に中身の濃い合宿だった。昨年は昨年と自分なりに得るものは多かったが、今回はそれにも増して充実していたと思う。

それは自分自身をとりこみ、会全体として言えることである。

多くのFEXの機会、頭を越すラッセル、強い風、長大な屋根、頭を後ろにアライイング"と云々として精神的・肉体的に満足のいくものである。今回の合宿を体験できたことは個人にとって大きいし、会全体の底上げという意味でも大きい。しかし、そんな中でもミスは多々あった。ネットボールを忘れる、ルトと間違え、MSK 炎上し、ネットをおとし、そして天候がもし悪かったら...。恐らくこの合宿は成功していたに違いないだろう。先に書いたミスはどれも基本である。この場で今さら基本について書くのはどんなものだろうか。しかしそれがもしもと悪条件で起こっていたら...。考えるまでもない。また、そういう事態にたまたま対処する対処の仕方が今一つ思慮に欠けていることも多々あった。野田氏が"浮"という考えの不足を指摘してくれたがその通りであろう。これから先、フィードバックな山行を目指するなら、ニアミスと限りなく0に近づけてゆかす必要はない。そして、より積極的に働き、自分から何を言われなくても行動できる位の意識込みと、体力・軽装をして余裕がほしい。

1年生はとても大きなものを得たと思う。この合宿をトーストでできたことは大きな自信にして良いと思う。エグは確かに合宿に参加できなかったことは大きいかもしれないが、それに呆れずにとなく、自分から学んで、一生けんめいやれば充分に戻せる範囲であると思う。かみさつて下さい。

最後に、合宿はどんなに勉強する場であると今日参加してみても思った。今の会の状態なら、1,2年生のちよとしたミスなら取り戻してくべき位のメンバーがそろっている。致命的なミスがないのは当たり前のこととして、皆積極的に前に出て、ラッセルやFEX等に積極的に参加すべきである。そこで自分で考えておいて、もしミスしてもそれはある程度仕方のないことだ。ミスしてはじめてわかることの数々に今回の合宿で気づいた。もちろんミスするとは免れられないものではない、迷惑をかけるかもしれない。しかし、それをおぎなってもあまりある程良いものであるということも、今回気づいた。来年は5年以上の合宿を成功させたい。

冬合宿の反省と感想

横山 輝生

色々あり、内容のよい合宿だった。反省と感想は山程だが、簡潔に書きたい。

個人の反省としては、基礎体力の不足。上級生としての役割を全うできないくらい。体力は最低条件だろう。さらに努力したい。

全体を通過しての反省は、今回の合宿の序に状況がシビアになる程、様々な可能性を把握した上で行動しているかどうか。が、当り前の事だけに、大きな分岐点になると感じた。

可能性を考へてに入れておいたために、一歩間違えれば前にも後にもいけなくなるこゝが、この合宿でも何回もあった。

いい強訓になったと思う。

感想は、まさに「終わ、こみおけ 金でよし」で。

喜所憂所では必ず晴れるという。お天道様と幸運の神様を終始うき運んでいた合宿だったのにはなれでしょう。

これは、僕らの全員一丸となった、頭手足のラッセルにもめげない

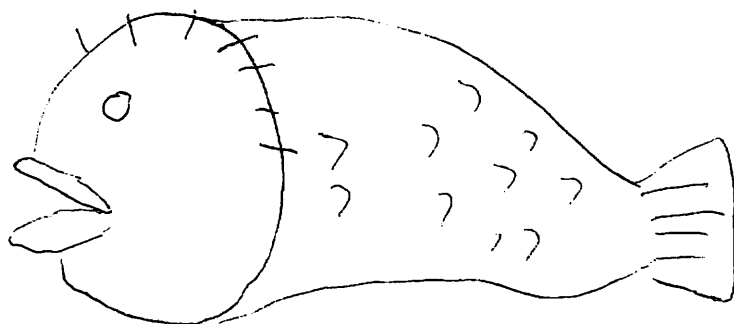
強い願いがあったからこそ成せた技だと思う。

個人にとっても、山岳会にとっても得るものがあった合宿だった。

最後に、冬山にゴキウんは必ず持っていこう。第3岩峰で打毛が凍り、死ぬかと思った。みんなさん気を付けましよう。

おわり

Fish!



冬合宿から

3年 大木 信介

自分自身のことを振り返るいい機会になったと思う。誰もが過去最高の山行と口々にしていたのに、技術が足りない、体力が足りない、気が回らない、経験が足りない等々、己に足りないものがよく見えたのではないかと信じている。敢えてここで自分自身の反省を言及するのはしない。それは一人で勝手にすればいいし、痛いほど身にしみている。

痛いほど身にしみる良い合宿に仕上がったと思う。4年生にとっては理想的な終わりをしたと思うし、私はとても感謝している。同時に合宿中ずうずうと“事故りそうな雰囲気”が感じられ、非情に危険な時期ではないかと思っている。合宿大成功の浮かぬ時にすぎないが、今だからこゝろ皆に山がもつ危険性を認識してもらいたい。ここにいる全員が来年はリーダー部員であり、2年以上であればリーダー部員であるのではなく、会を引っ張ってゆく立場にいるからこのリーダー部員であり、今回のように天候に鬼まわれることがかりげないことを、運に鬼まわれるばかりであるはずがないことを意識してほしい。今回の合宿においてもこういう場面は2.3以上あったわけである。くわばら くわばら。経験のないうリーダー部員は論外。

何はともあれ、どの学年にとっても収穫の多い合宿だったと思う。
 これからも己々自分のやりたいことを、山から山を、岩から岩を、その他
 がその他を全力でやってほしい。そして大切なのはそれ以外との
 バランスを好むと思うのだ。仲間同士いそりに上を目指し、互いに
 励まし合いたいものである。

以上

冬合宿を振り返る

3年 岸本

まずは計画どおりにトレースできたことを素直に喜びたい。しかしこの成功はわれわれの力、実力によってのみもたらされたものでないことは今回の合宿に参加したものすべてが等しく思うところだろう。人に助けられ、モノに助けられ、超がつくほどの強運に押されて初めて今回の成功はあった。この事実は今後のためにも謙虚に受け止めるべきだろう。

私が見る限り今回の合宿は成功と失敗が半々に入り混じった内容だった。それだけに収穫も多ければ改善点も同じく多く、学ぶことの多い、中身の詰まった合宿だった。少なくとも私に関してはそうである。合宿の醍醐味を味わえた、とも思う。

食糧、装備等について個人的に思ったことはその場ですべて言うようにしたので改めてここで書くようなことはしない。係りの人はみんなからの指摘を十分に生かして後に役立つよう最善を尽くしてほしい。改善の余地は多いはずだ。

今年の初めに4年生は活動の指針として相互のコミュニケーションの重要性を説き、その構築を掲げた。それが今回の合宿を通じてだいぶ達成されたのではないかと個人的には思う。これは一つの財産としてこれから大切にしていきたい。

最後に、終始リーダーとして隊を率いた川井さん、4年生、そしてそれを支えた他の上級生、それぞれお疲れ様でした。めげずに最後までついてきた1年生3人、ご苦労！！大儀であった。運悪く参加できなかった中村はこの冬、とにかく山に行くべし！

入山前の食中毒事件から得た教訓

合宿や、ハードな山行の前は町を歩きかう通行人の、たとえそれが5つと満たない幼児であっても、一挙一投足に警戒し、店で出された食事にも友達をそれと無く使って毒見をさせるなどして細心の注意を払わねばならない、……。そうあの男、ゴルゴ13のように。

冬合宿

日高

13日間という、今までの中で一番長い山行になった今回の冬合宿、それだけに今までで一番反省の多いものとなった。

。まか fix。 fix 隊に出たが、時間がかかりすぎた。一年を基本に考えるべきで、張る場所は間違っていないかと思う。しかし、その場所を見てどこにランナーを取るか。また、ザックの長さの読み違いが決定的なミスだった。fix 隊は手際良くセーラーに動けなければならぬ。経験がまだ足りない。

。ゴーグルを持って行かなかった。眼鏡とサングラスだけで行きたんだが、最終日の強風で飛ばされた雪が目にあたり、目が痛いし、眼鏡は凍りついて、なかなか取れず、視界がなくて、非常に精神的に疲れた。その他にもゴーグルが雪山が防げた事があった。

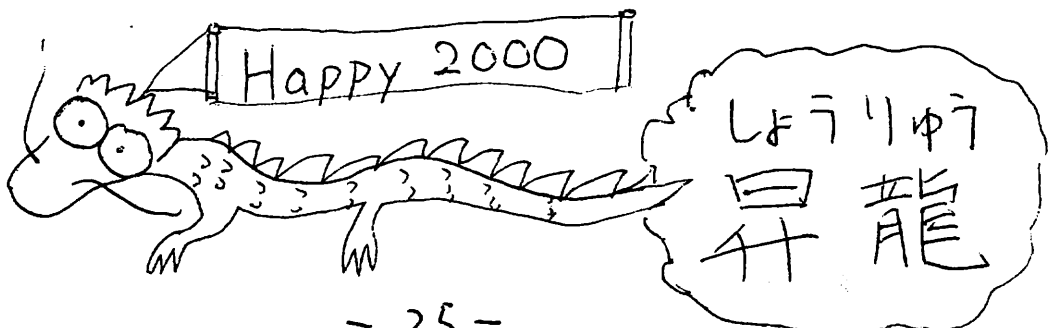
厳しい状況の時の事を考えるとゴーグルは要る。

。7月冬の時バテて、冬合宿では絶対にバテないとは、かりが頭に常にある、精神的な余裕がなかった。これは全体を通し(の反省であり)、3年の反省としては不適切なものだと思う。

常に余力を残しておくという意識が頭にある、アグリビッドに欠けていた。上級生は体力がある(あたりまえ。動けてあたりません。"余力のなさ"から来る"反省" "思い" みたいなものは自分でわかる(いやはい)と思うので、わざわざ書きません。

途中、"行けるのか?" と思う事が何度もあった。また、事故りそうな川が時々あった。しかし、全員が協力、がんばりで全行程をトースできたと思う。いい合宿でした。

しかし、個人としては反省の方が大きかった。しかし、楽しかった。



4年間を通して最後の合宿が無事に終わり、今少しほっとしている。それが正直なところ。

合宿中を振り返ると、常に気持ちに余裕が無かった。入山前の各自の状態、偵察不足。又、入山中のそれと、過去から積み上げてきた、個人と組織の持つ実績。冬山では当然視野に入る比率の大きくなる自然条件。

その他にも頭の中を巡る要素は多く、それが精神的な余裕の無さを生んでしまった。合宿のリーダーを務めるのは今回が初めてという事を考えても、もう少し高い位置から全体を見ることかできなかった自分に力不足を感じずにはいられない。

自分にはもう「来年は…」という言葉はこの会に対して残されてはいない。少しさびしい気もするが、今の1,2,3年生に全て任せてOK。というか、自分はもう必要無いだろう。来年は、~~また~~、来年からは、今よりも少し離れた位置からこのサークルの活動を見させてもらいたい。

以上、個人的な気持ちを書かせてもらった。

山岳会には年間を通じて5回(5回)の合宿が組まれている。(ゴールデンウィーク合宿)、新人合宿、系徒走合宿、夏合宿、プレ冬、冬合宿。その全てが山を楽しむために必要なものであり、不足する箇所も今の自分には見当たらない。それらの1つ1つに参加し、取り組むことで、基礎体力は身に付いている。基礎体力の無い発履なであり得ない。

個人的に見ても、組織として見ても、今回も「良い合宿だった。各自が今回得た経験も大切にしたい。」

最後に、今年の総括に近い内容になっちゃうが、野田君との真ねで、自分か好きな言葉を書きたいと思う。

「男の価値は、背負っている十字架の重さで、その数によって決まる。

それが重い程、又、数が多い程、思慮深い男になれるのである。」

「他人をよく観察する事によって、自分を客観的に押し出す鏡も、自分の中に作り出す事ができる。」

今回の合宿を成功に導いてくれた全ての人達、先輩、後輩に深く感謝したい。

とうとう終わったな、という安堵とも郷愁とも言えない変な感覚が僕を包んでいる。思えば短い四年間だった。満足したことも不満足なことも、後悔だってたくさんあるし、こんなんで終わってしまったのは困るなんて事もある。

「行き方に解決はない。人は皆苛立ちを抱きながら次へ進む、粘り強く生きていく過程が人生では大切で、結論はどうでもいい。」

宮本 亜門

俺に出来ることはこの程度だったのかもしれない。しかし、もう一度生まれ変わるとしたら、激しくぶつかって行くような四年間を送りたいとつらつら思う。

本題に移りましょう。

正直、大成功でした。万々歳です。なんて言いたいところなんだけど、良心が許さないの合宿中の反省は反省としてきちんと取り上げ、後輩たちにぜひ、反面教師として有効に活用してもらいたい。

今回の合宿ではなにかとリーダー部員の多いせいか、他力本願の行動が目立った合宿と言えるだろう、今後この様な形態の合宿では最上級生は常に抜け目がないかどうか目を光らせなくては行けない。一つの失敗が全体を失敗へと、ひいては怪我人などの重大な事件へと発展してしまう。例えば今回の合宿はポールやガスポリの車中への置き去り、尾根の取り付きの間違い。などが挙げられると思う。

次にIFの欠落だ。これは四年の反省であり、以後は繰り返してほしくない失敗である。抜戸岳から先への行動における衝動的とも言える判断。いろいろ可能性が考えられたし、それに対する対処策もさまざまにあった。がしかしあの行動は、可能性に対する対処を何一つしないまま、現状がそのまま続くことを前提とした行動であり、その可能性は非常に少ないことだったのだ。そして、双六小屋の利用、どう考えてもESCにに入れて然るべきものだった。なぜ欠落したのか。ルートの上のトレースのみに目を奪われ、あらゆる失敗の可能性を真摯に見つめなかったからだ。常念岳の登りと(三日)東尾根の強風(四日)もそれだ。登りでは稜線に向かうにつれ風が強くなることは十分予想できたし、行動限界も一年に合わせなくては行けないことは誰でも知っていることだ。下りでは前常念を過ぎれば風がおさまると盲信して疑わず。それには、十分な根拠もあると自信ありげな発言まで出た。それを覆せなかったリーダー部員すべてにも責任がある。何せ、地形図を見れば風が強いのは一目瞭然だからだ。

そして運も実力のうちだけど、運という数字を抜いた、自分たちの本当の実力はどの程度なのかという事を把握することがIFを考えるキーワードになるのではないかと思う。

あと、反省と言うか愚痴と言うのかまあ、細かい点を述べさせてもらおう。

外的要因に頼ることが多かったというのも特筆しておくべきだと思う。まず、天気。神様有難うである。襲ってきた寒気は700hpaで-10℃程度。-15を下回るのは無かった。

感謝感謝である。

エッセン。ぎりぎりまで軽くしてくれたエッセンにはご苦労様と、言いたい。でも、少し、ギリギリを下回った。差し入れと、各小屋での補給が無かった場合を考えてほしい。脱落者が出ていた可能性が高い。下山後の霜焼け人口の多さも気になるところだ。

エッセンはいつの合宿も難しい。重過ぎても軽過ぎても失敗する。ただし今回の合宿参加者はどの程度からやばいのか判断がつくようになったのではないだろうか。ここに対するエッセン系の貢献は大きい。

あと、装備その他係りの人はご苦労様。各自反省を活かしましょう。

最後の注文は、合宿に限らず、それぞれが主体的に参加してほしいと言うこと。合宿はリーダーだけの物でも四年だけのものでもない。参加する会員がそれぞれ主体的に行動して楽しむ物だし、追及するものだと思う。文句や意見や疑問があつたら即座に言うことだ。四年は完璧ではない。それぞれは確かに駒のように感じるかもしれないが、一人一人が参謀足り得るのだ。今後の活躍を期待します。

感想は、あんなことそんなこといろいろあって楽しかったです。四年にもなって f i x に出させてもらったし。学ぶことも多かった。合宿全体を通して後輩には頼もしい面が多く、自身多くを学ばせて貰った。ありがとう。

S L の仕事としてはリーダーに助言をする。問題提起をする。補助をする。細かい点では突っ込まれる点もあるが、70点ぐらいで出来たのではなかろうか。川井には時々突っかかってしまったりしてかなり迷惑を掛けた。リーダーという孤独な仕事をまっとうした川井にはこの場を借りてご苦労さんといいたい。同じく麦谷、中ジご苦労様。

そして計画段階から合宿後までいろいろと動いてくれた三、二年生に有難う。最後までふんばってがんばった一年生、未来はお前たちの物だ。がんばれ。

ほんでもってエグ！ぐずぐずしると来年舐められちまうから、とりあえず涸沢走りで一位をとっとけ。

それでは 夜露死苦



冬合宿反省と感想

4年 麦谷 水郷

今回の冬合宿の成功は、運に恵まれたところがあったが、それを単に運も実力のうちと片づけてしまうのは、あまりにも安易なような気がする。山においては、運が悪かったでは済まされない場面がある以上、本当に運に救われたか、それとも運(がわるくあつても実力のうちでカバーできたかを慎重に判断しなければならない。そうでなければ、真の反省、経験は生まれてこないのであるから。

例を挙げるのを割愛するが(総会では例を挙げたが、山ではいろいろな要素が絡むため一概にはいえないと気づいた。そんな訳で文章は短くなるわ、変になるわで大変さ)、とにかく、山には外的要因がある以上、運という実力は絶えず考慮していかなければならない。

今回の冬合宿は、2週間近くに及ぶだけあって、タフさが要求される合宿であった。それにもかかわらず、一人も途中下山を口にすることがなかった(少なくとも聞かなかった)のは、一重に皆の全行程をトレースすることのこだわりがあったからだと思う。いつものことだが、明るい雰囲気崩さなかったことも、長期に渡る合宿を乗り越えれた秘訣であるような気がする。

ブレ冬の実省感想で言ったように、3年生の影に押されないよう努めてきたが、全く3年生の自主性の強さには恐れ入った。2年生もそれに負けず劣らずに前にでてきたのには感服してしまう。自分が2,3年生であった時分と照らし合わせると、恥ずかしくなってくる。1年生も初めての冬合宿で2週間という長さであったにもかかわらず、ねばり強くついてきたことに敢闘賞を与えたい。とにかく言いたかったことは、みなさまお疲れさま。

山を思えば

人恋し...

人を思えば

山恋し....

松崎 林太郎

(反省)

- ・合宿始めから忘れ物、取り付く尾根の間違いなどのポカミスがあった。忘れ物を取りに3人本隊と別れたが、合流できない可能性に関してよく考慮しなかった。取り付き尾根の間違いに関しては、地形読みの油断ミスであった。
- ・東鎌で fix 隊として fix を張ったが、張る場所、長さなどの判断の遅れでヒュッテ大槍の手前で本隊に追いつかれてしまった。fix は経験によるところが多いので、経験不足を痛感した。
- ・酒、つまみなどの配慮に欠けた。
- ・ビタミン剤やひざの痛み止め塗り薬などを個人的に持っていけばよかった。
- ・合宿直前に食中毒にあり、もちなおしたものの、危なかった。合宿一週間前から山は
おまっている。

(感想)

今回の合宿は幸運による所が多かった。初日のミスもありつつ、好天やトレースや東鎌から先の雪の少なさに助けられ、全行程をこなせた。東鎌は、悪天時（ホワイトアウトや強風）は厳しいだろう。長い合宿だったが、一日があつという間であった。最終日の常念東尾根での強風で、指先の感覚がいまだ少しおかしい。

合宿が始まったころはこの先どうなるのだろうと怖いもした。リーダー会でも出たが、そういうことになって来たチャンスを上手くつかんで波に乗ったから無事成功したと思う。長い行程だった分、判断が難しい場面も何回かあった。今回は、そういう場面での決断を下すリーダー川井といい意見を出してくれたリーダー部員と、頑張った1年、つまり一人一人全員が合宿を無事成功に導いたと思う。

(最後に合宿における fix 隊について)

合宿は隊全体がスムーズに前進していくことが理想であろうし、また一方で fix 張りなど、隊全体を意識した行動、判断、経験のためのいい場であるとも思う。しかし、隊全体がスムーズに前進しつつ、個人個人の経験が培われるように配慮することは非常に難しい。fix 経験の少ない者が経験のためとはいえ悪天時や厳しいところで fix を張れば、全体としての動きが遅れることは予想できる。自分の場合、fix を張りたいと思ったら、まず自分の体力、技術、経験と、ルート自体の難易度、行程、天候とを比較してみてやれそうかどうか考えている。もちろんやれそうなところばかり選んでは進歩が無いかもしれない。時にはちょっと大変そうな個所も行かねばならないだろう。けれど始めは、ある程度自分にとって極端には無理のなさそうな fix を張っていればそのうち自信もついてくると思う。当たり前かもしれないことをなんだかえらそうに書いてしまったが、悪しからず。



— 編集後記 —

。「文体はその人の人となり」を表わす。」

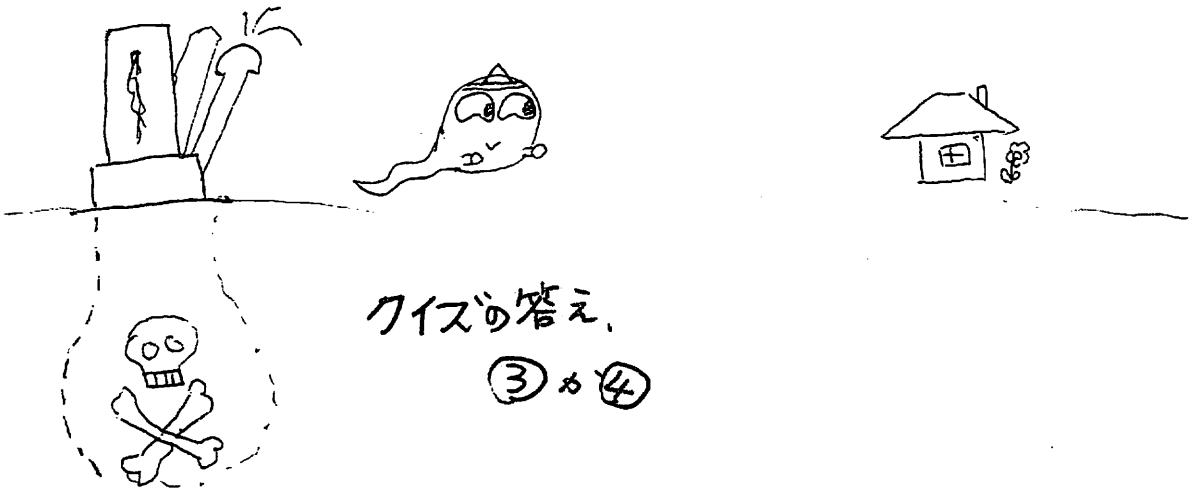
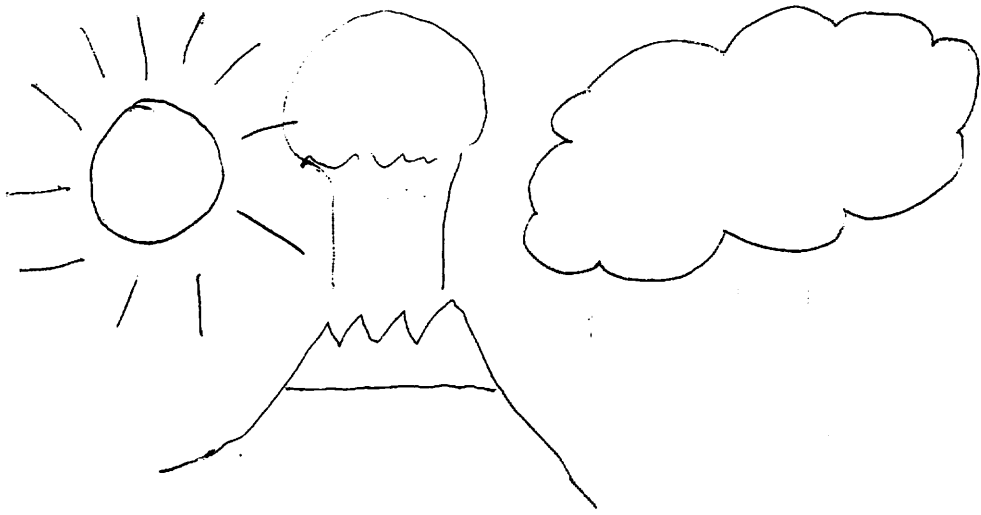
と、という言葉をごどこかで聞いたが、その通りかもしれない。

個人の反省、感想を読んでいると、1人1人の顔やその表情が目に浮かぶ。(この会にかぎらず)。全ての間がオリジナルだ。「自分に自信を持つ」というのは、己のオリジナルさに気付くか否かがある程度かかわっている様に思う。うん、きっとそうだ。

今回の合宿の意味、各自が得た物●がハッキリ分かるには、もう少し時間がかかるとのかもしれない。ただ、この3日間には単なる「上げ底」ではなく、「底上げ」だ、たのたと言えるのではないだろうか。編集したかどうそんな事を思った。(もちろん、全ての合宿に言えることなんだがケトも。)

2000年 1/18. 0:20 自宅にて

川井



クイズの答え.

③か④

発行：信州大学山岳会

表紙：野子川・ゴロ-

編集：カワイ

印刷：松本.

定価 120円(税込)